

令和2年度 学校評価総括表

教育目標		日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、時代の進展をみつめ、人権を尊重する民主的な社会の創造に努める人間の育成を期する。			総合評価			
運営方針		1 人権尊重の精神に徹し、正しい生き方の自覚を深め、社会連帯の精神を養うとともに、人間性豊かな生徒の育成に努める。			A			
		2 基礎学力の定着を図り、専門的な知識と技術を習得させるとともに、創造的な知性・技能を育てる。						
		3 正しい判断力と強い意志力、たくましい心身を育てるとともに、自律的な生活態度を養う。						
		4 体験的な学習や実践を通して、正しい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、自信と意欲をもたせる。						
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標				
<p>これまでの取組を更に充実・発展を目指していく。進路面では上場企業の他、4年制大学や公務員の合格、また、20年連続就職内定率100%の実績も持続できた。「実社会に通じる節度ある行動が出来るよう指導の徹底が図られている。」</p> <p>○アンケート調査では、保護者から「王寺工に行かせてよかった」という評価を93%を超える高い評価を得ているものの前年度(97%)に比べると低下した。この結果を踏まえ、保護者からの要望の高かった「資格取得に向けた補習」、「社会性の育成」、「企業見学や企業体験」などを一層充実させたい。</p> <p>また、教職員の連携やコミュニケーションをより一層図り、一丸となって積極的に生徒と係る姿勢を常に保持し、現状維持ではなく向上を目指す。</p>		1 分かりやすい授業、きめ細かな指導を行い、生徒の学力向上に努める。		個々の学習状況を把握し、きめ細かな指導を目指す。常に授業改善に努める。				
		2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。		挨拶励行を基盤とし、礼儀やマナーの向上に努める、積極的に生徒にかかわる。				
		3 工業教育の充実と、キャリア教育の推進と就職指導・進学指導の充実を図り、生徒の専門性を高めるとともに進路を実現する。		産学連携や生徒の自主活動を奨励する。資格取得を推奨し積極的にサポートする。就職、進学ともに質の高い進路指導を行う。				
		4部活動やボランティア活動を奨励し、人間力の育成に努めるとともに、人権教育をあらゆる教育活動の中で推進する。		人権尊重の精神に立ち、自他を敬愛する心を育む。積極的に部活動やボランティア活動への参加を奨励する。				
		5 保護者や地域への情報発信に努め、地域とともにある学校づくりを目指す。		学校からの情報発信に努めるとともに、地域の方々との協働する機会を増やす。				
		6教職員の勤務時間・健康管理を意識した働き方の推進と業務改善に努める。		部活動の活動計画書の作成と管理および、健診結果や労働時間の客観的な把握を行う。				
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
学習指導(教務)	「分かりやすい授業」「きめ細かな指導」など生徒の能力に応じた効果的な学習指導とを目指し、授業改善を進める。	「分かりやすい授業」「きめ細かな指導」を目指し、授業改善アンケートを実施し、その結果を踏まえて、改善を目指す。 アンケートの回数 A:3回 B:2回 C:1回	C	B	B	<p>全校生徒に授業改善アンケートを実施して、授業改善に努めた。今年度も11月の1回しか実施できなかった。</p> <p>コロナ禍の影響で、1学期は、シラバスに従って授業をすることができなかったが、2学期以降目標を達成できるような指導が概ね出</p> <p>観点別による評価を、各教科で取り組む事ができてきた。特に在宅教育期間中の課題の評価を観点別で行うことができた。</p>	<p>・観点別評価が行えるように、各教科より意見を聞きながら環境を整え、職員の共通理解の下取り組んでいく。</p> <p>・分かる授業に向けて、生徒からのアンケート結果を真摯に受け止め、各授業担当者が授業改善することが望まれるので、アンケートを学期に1回実施していきたい。アンケートの実施方法もG Suiteを利用するなど工夫して行えるようにする。</p>	B
		シラバスに従って、目標を達成できるような指導を目指す。 達成度 A:達成した B:概ね達成した C:達成できなかった	B					
		観点別評価により、評価を行うことを目指す。 達成度 A:評価できた B:概ね評価できた C:評価できていない	B					
生徒の自主研究を促進する。	社会人講師や外部指導者による工業技術を学ぶ機会を設ける。 実施学科数 A:3学科 B:2学科 C:1学科以下	A	B	B	<p>コロナ禍の影響で、一部実施出来なかったりもしたが、限られた時間の中で、工業技術等学ぶことができた。</p> <p>コロナ禍の影響で、一部実施出来なかったりもしたが、限られた時間の中で、工業技術等学ぶことができた。</p> <p>課題研究の成果を生徒や来校者に対して展示することで、学校の取組を理解してもらえた。</p>	<p>・工業の専門力育成のため、「ものづくり」への関心・意欲・態度を高めるため、授業を工夫し、日頃から生徒作品や工業製品・工業技術に触れさせたり、見させるように取り組んでいきたい。</p> <p>・探究的な見方・考え方を働かせながら横断的な学習に取り組むことにより、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、課題を発見し解決していく過程で、協働していく姿勢、プロセスを具現化し伝えることができる能力を今後育成できるように取り組んでいく。</p>		
		課題研究で優秀な研究を1・2年生の前で発表する機会やパネル展示の機会を設ける。 取組み回数 A:3回以上 B:2回 C:1回以下					C	
		課題研究等の優秀な作品を、本校の生徒作品展示場「ギャラリー工業」の展示に加える。 展示作品数 A:3作品以上 B:2作品 C:1作品以下					C	
(教務)学習指導	成績処理システムの試行と研究を行う	成績処理の運用がスムーズに行えるように、研修を行う 実施回数 A:5回以上 B:3回以上 C:1回以下	C	C	B	<p>研修を行う機会が設けられなかったが、マニュアルを作ることで、かなりスムーズに行えるようになった。</p> <p>コロナ禍の影響で、登校できなかったときにの在宅教育についてや、行事の中止などについて情報発信できた。</p> <p>毎月行事予定を掲載することはできた。コロナ禍の影響で行事が中止になることが多く、更新する内容が少なかった。月1回ぐらいいか情報発信はできなかった。</p>	<p>・成績処理等かなりスムーズに行えるようになったが、入力の仕事など複雑な面もあるので、マニュアルなど用いて、共通理解をして、ミスの内容に取り組んでいく。</p> <p>・学校の行事計画が生徒、保護者に情報が伝わっているが、学校の様子を伝えるには不十分である。プリント配付に加えて、ホームページでも各種情報発信も行っているようにし、ホームページの情報発信の期間、回数、内容を見直していかなければならない。</p>	
		webページを更新して情報発信を行う。	B					
		webページを毎月平均2回以上更新を行い、中学生・保護者・企業に対して情報発信する。 年間更新回数 A:24回以上 B:20回以上 C:12回以下	B					
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
式典・広報・PTA連携活	厳かで規律とぬくもりのある式典となるよう企画と準備をする。	儀式行事の円滑な実施を行うために、効率的な企画・立案を行い、教職員の共通理解を図るとともに、分掌・学年間の緊密な連携・調整を行う。	A	A	B	<p>各分掌・学年との連携・調整を行いながら、始業式・終業式・表彰式は、コロナ感染拡大防止のため、教室で実施した。入学式・卒業式は、式次第の見直し、椅子の配置の工夫などコロナ感染拡大防止に努め、体育館で、厳粛に実施できた。</p>	<p>来年度も始業式・終業式・表彰式は、関係部署との連携を図りながら教室で実施していく。教室にモニターを設置すれば式典を効果的に実施できる。</p>	
		厳粛さや、規律正しさに加え、保護者・来賓の目線にも立って式典を実施する。	A					
		各科・学年・分掌との連携を密にし、学校案内リーフレットを更新し、最新情報を伝えられるようにする。 効果的なオープン・キャンパスを開催するとともに、中学生・保護者の積極的な参加を促す。 参加者総数 A:200人以上 B:100人以上 C:50人以上	B					
学校案内リーフレット等の内容の充実を図るとともに、王寺工業高校の魅力を発信する。	校外で実施される学校説明会等に積極的に参加する。 出席回数 A:10回以上 B:7回以上 C:5回以上	C	C	C	<p>学校案内リーフレットを最新のデータに更新し、奈良県の全公立中学校に送付し、本校の最新情報を伝えた。学校説明会は、コロナ禍、保護者の参加ができなくなり、中学生のみでの実施となったため参加者数は124名であった。実施後のアンケートから本校のことをよく理解いただけた。教育研究所制作まなびだよりで本校の学校紹介が奈良TVで放映された。</p>	<p>関係各部との連携を密に図り、計画準備を早くから取りかかる。学校案内リーフレットに最新の情報を掲載できるよう計画的に準備を行う。各中学校への資料等の送付やHP等で本校の最新情報を広報していく。</p>		
	新聞社や報道機関へ本校の取組や学校行事等の情報発信を積極的に行う。 情報発信回数 A:10回以上 B:7回以上 C:5回以上	C						

動 (総務)	育友会との連携を図り、教育活動への理解と協力を求める。	評議委員会や育友会保護者研修会、王工祭やマラソン大会の案内や育友会活動の様子をHPにアップし、育友会活動へ保護者の参加を促す。 HPへのアップ回数 A:5回以上 B:3回以上 C:1回以上	B	B	コロナ禍、例年実施の活動ができなかった。育友会評議委員会の様子を毎回HPにアップした。各種研修会もほとんど開催されなかった。	来年度も育友会活動の様子をHPにアップし育友会活動への保護者の参加を促していく。	
		育友会本部役員・評議委員との連携を密にし、各種研修会への参加を案内し、充実した活動の展開に協力する。 各種研修会出席率 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上	B	B			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1 2 総合		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒指導	生徒に積極的にかかわり、社会人として必要とされる礼儀を身に付けさせる。	本校の伝統になっている礼節を重んじる校風と挨拶運動を推進する。生活委員を中心とした挨拶運動の年間のべ日数 A:21日以上 B:16日以上 C:13日以下 定期的な校門指導や、効果的な下校指導(校外)を行う。多様な生徒の姿を知るため、昼食時の校内・廊下の指導を、校内は分掌全員で分担し廊下は学年で分担し毎日行う。	B	B	7月からの実施であったが、生徒会指導部とも連携してあいさつ運動が、定期的効果的に行われた。 年間5回計画に増やした校門指導週間では、職員全体で校門指導に取り組めた。HR担当以外の職員では校門指導に毎日取り組んだ。下校指導も定期的効果的に行われた。 年間総遅刻回数は昨年度875回から1524回へとほぼ倍増。コロナ禍の環境変化で不安定になり、生活リズムが乱れている生徒が多い。今まで以上の丁寧な指導と、遅刻の内容を精査して数値目標を設定特別指導回数は昨年度20件であったが、本年度は20件と変わらなかった。コロナ禍によるストレス増も、深夜徘徊事案の増加に現れている。規範意識の啓発・意識付けを多様な方法で行う必要を感じ「生徒指導通信」は年間10回の発行予定である。今年度は6回の発行であったが、学校休業期間の発行など「もう一手間」が必要で夏の職員会議日に、人権研修と兼ねて愛着障害について、高等養護の永野先生にお話いただいた。また職員会議後等に生指協資料等で啓発を重ねた。 自転車通学者集会、運転免許取得希望者集会、自転車通学者の安全点検などは行えた。全校集会の形で安全教育が出来ず、薬物濫用防止教室も行えなかった。 学期ごとの「いじめアンケート」を行うことができた。生徒の様子を知る上で大変重要であった。	本校の伝統である「あいさつ、礼節を重んじる校風」の推進に努め、教師がが生徒を見守る「空気」を生徒に伝えていきたい。 生徒の気質の変化に伴い、指導と支援を両立し生徒に向かっていく必要がある。特にSNSがきっかけのトラブル・問題行動も、特別指導にはならないものの、教師が間に入る事案も増えてきている。人数をかけて多様な方法で、生徒を成長させる取り組みが必要である。 指導と支援の両輪で生徒指導を行う以上、職員啓発の研修は増加させる必要がある。薬物濫用防止集会は、学年別に分けての実施を予定している。自転車通学生には、定期的に職員が安全点検を行い、原付免許の講習会も全員参加で実施を目指す。いじめアンケート」は今後も継続して、定期的に行う。	B
	基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。	基本的生活態度の醸成につとめる。 年間総遅刻回数前年度比 A:20%減 B:10%減 C:変化無し 規範意識を高める。 年間総特別指導回数前年度比 A:26%減 B:11%減 C:変化無し 「王工スタンダード」の徹底をはかるため、「生指部通信」を発行する。 年間発行回数 A:10回以上 B:8回以上 C:4回以下	C	C			
	自他共に「命の尊さ」について考える生徒を育成する。	生徒指導の現状と課題についての事例研修会を実施する。 安全教育の充実を図る。(交通安全教育、薬物乱用防止教室等の実施)	A	A			
	いじめなき学校を確立する。	いじめの未然防止、早期発見につとめ、いじめを認知した場合は「いじめ防止基本方針」に基づいて適切な対応を行う。	B	B			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1 2 総合		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
人権教育活動	人権教育の推進体制の確立	新入生人権アンケートを実施・分析し、講演会などの計画に反映させる。 A:反映できた B:不十分だが反映できた C:余り反映できなかった 人権教育部で人権HR指導案を作成し、事前研修を実施する。 A:年3回 B:年2回 C:年1回 春の人権全校集会はDVD視聴、秋の人権全校集会は外部講師の講演会を実施する。 人権課題の解決を目指す職員研修を実施する。 A:年3回以上 B:年2回 C:年1回	B	B	アンケート結果を人権HRや人権学年集いに反映できるよう工夫した。「人権や人権教育」という言葉を聞いたのは学校と回答した生徒が86.5%あり、学校以外で人権学習する機会が殆どない状況人権教育部が作成した指導案で各学年の人権HRを実施した。例年実施の車椅子体験は、コロナウィルス感染拡大防止のため代替指導案で実施した。また、講師招聘による講演会は実施できなかった。 本年度は生徒指導部主催で奈良高等養護学校から講師を招聘し、愛着障害についての職員研修を実施した。また、人権HRの実施にあたって事前研修を実施している。 生徒自身の体験を通じて感じたことや考えたことを率直に書いた作文も多数あり、生徒理解を深めるためにも役立っている。人権作文の提出率は、ほぼ100%である。 人権教育部員が啓発文書を作成し、各クラス担任を通じて年7回の教室掲示を実施した。 生徒会役員2名が人権研究部に所属することになっており、交流委員と共に交流活動を実施した。コロナウィルス感染拡大防止のため、例年のように奈良養護学校を訪問しての交流会ができず、相互に学校生活のビデオや作品を交換して相互理解を深めた。 要配慮生徒の情報を中学校から引継ぎ、入学後に合理的配慮が必要な場合は、職員間での共通理解を図った。定期考査の問題用紙の拡大などの合理的配慮を行っている。	・高校入学までに学習していない内容を中心に3年間の指導計画を作成する。人権学習の基本的内容は人権HRの計画に組み込み、新しいテーマや講師を招聘して実施する方が効果的な内容は人権集会で実施する。 ・来年度もコロナウィルス感染拡大防止のために全校生徒が体育館で講演を聞く事が困難であると考えられるので、講師招聘による講演会は1年生のみを対象としての実施を検討する。 ・多種多様な人権問題があり、何を職員研修のテーマにするかは非常に難しいが、部落差別に関する若手教員の研修機会が少ないように感じられるので、継続的な実施が必要ではないか。 ・担任は学級生徒の人権作文を読み、作文内容により個人面談などを実施する。 ・人権を確かめ合う日の掲示物は啓発活動として有効である。担任が教室掲示を行う時に内容を深める取り組みをお願いしたい。 また、人権教育部員だけでなく、輪番制で職員全員が作成することも検討したい。 ・来年度もコロナ禍で例年通りの交流会実施は断念することになると予想されるが、インターネットを活用して交流会を実施するなど対応も検討しても良いのではないかと。 ・従来通り担任や学年主任の要請で特別支援委員会を開き、合理的配慮の内容を検討して職員全体の共通理解を図る。また、特別支援の校内組織の再検討も必要。	A
	人権尊重の知識や態度の育成	生徒個々の実体験を題材とした人権作文を提出させる。 A:提出率95%以上 B:提出率85%以上 C:提出率65%以上 人権を確かめ合う日の啓発活動を行う。 A:年7回以上 B:6~4回 C:年3回以下 生徒会執行部との連携を活かして、人権研究部の活動の活性化を図る。 A:年間活動3回以上 B:年間活動2回 C:年間活動1回	A	A			
	特別支援体制の充実	特別な支援を要する生徒の状況を把握し、校内関係教員・保護者ならびに関係諸機関との連携を図り、個に応じた合理的配慮に努める。	C	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
文化図書活動	読書に対する意識向上に努め、図書室の利用促進を図る。	新着図書・話題の図書を、手作り掲示板を活用して紹介する。 貸出冊数の増加割合（前年度比） A：5%以上 B：3%以上 C：1%以上			C	1年生の仮校舎が図書館から遠くなったこともあり、1年生の利用が少なかった。 新型コロナウイルス感染症の影響で、1学期に発行できなかったこともあり、1年間で5回発行できた。 図書館便りをホームページに掲載できなかった。 新型コロナウイルス感染症の影響で、王工祭自体が中止になり、ビブリオバトルを実施できなかった。また、朝の読書週間は、第1学期は実施できなかったが、他の学期は啓発ポスターと啓発放送で告知し、スムーズに行えた。 新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒によるカウンター当番を中止した。 ベルマーク教育助成運動については、育友会、生徒、教職員により定着している。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響で積極的には実施できなかった。 活用はできていた。	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、臨時休校や分散登校などがあり、例年のような十分な図書館運営ができなかった。 感染拡大防止の対策として、カウンターに飛沫防止カーテンの設置やハンドソープ、消毒・除菌スプレーの設置を行った。また、ソーシャル・ディスタンスとして使用できる椅子の数を減らしたが、来年度も引き続き行っていく。 図書館だよりは生徒に配布や教室に掲示しているが、ホームページに積極的に掲載していき、「朝の読書週間」も毎学期実施して、読書に関心を持ってもらい、日常でも読書の習慣をつけていてもらいたい。 来年度以降も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止をしながら、図書館運営を推進していきたい。	B
		図書館便り「飛行船」を年間5回発行し、タイムリーな話題を提供することで、図書館活動の広報を図る。また、発行した「飛行船」は学校ホームページに掲載する。 A：6回以上 B：5回 C：4回以下			B			
		王工祭で文化図書委員と有志によるビブリオバトルを実施し、読書の啓発を行う。また、「朝の読書週間」（年間3回）を通して、読書の習慣を身に付けるよう動機付けをする。 A：ビブリオバトル実施+読書週間3回 B：ビブリオバトル実施+読書週間2回 C：読書週間2回未満			C			
	貸し出し・返却等のカウンター業務を分担し、責任を持たせる。 A：90%以上担当 B：75%以上90%未満担当 C：75%未満担当			—				
文化図書委員の育成に努める。	図書館便り「飛行船」の発行、ビブリオバトル、文化講座、お茶席、著名人による出前授業の企画・運営をさせる。 ベルマーク教育助成運動に参加し、図書購入のために自分たちができることを意識させるとともに、ボランティア意識の向上を図る。 A：企画・運営予定の80%以上実施 B：60%以上80%未満実施 C：60%未満実施				C	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒によるカウンター業務ができなかったため、来年度は今までのように生徒にカウンター業務を任せていきたい。 王工祭が中止されたこともあり、図書館関連のイベントであるビブリオバトルやお茶席がなくなってしまったが、来年度は復活させていきたい。 また、文化講座も観客が密になることが懸念されたが、開催方法を工夫して実施していきたい。	B	
	蔵書管理の効率化を図る。 現在導入されているコンピュータによる図書検索システムの活用をさらに進める。				A			
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
進路指導	望ましい勤労観、職業観の育成に努める。	教育活動全体を通じて、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させるとともに、基本的な生活態度を確立させるため、挨拶・服装・メモなど社会人マナーを身に付けさせ、社会人としての自立に向けた指導を行う。挨拶・服装・メモ等について生徒意識調査を実施し、各項目において「必ずしている」と回答した生徒の割合。 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上	C		C	挨拶・服装については「必ずしている」と回答した生徒は1学期も2学期も80%を超えているが、メモをと「必ずしている」と回答した生徒は1学期で18%、2学期で12%しかいなかった。 経済状況の悪化から、就職活動は苦戦すると思われたが、一部を除いてはそれほど崩れることなく一時の合格率は例年並みであった。 国立大学、国立高専に合わせて3名が受験したが、国立高専に1名合格者が出ただけであった。そもそも受験者数が少ないので、進学希望の生徒が積極的に受験に挑戦するような雰囲気作りが必要と思われる。 自衛隊に6名、警察官に1名合格した。本年度は外部講師を呼ぶこともできず、校外で実施されるセミナーも無かったため生徒の自学自習に頼るしかなかった。 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加を見合わせた生徒や生徒の受け入れが直前にキャンセルとなった事業所があった為、参加率は84.6%であった。 第3学年に実施した進路行事に対するアンケートでは「満足している」が56%、「ある程度満足している」が40%で合計が96%であった。「どちらかという不満」「不満」はどちらも2%であった。	本年度は新型コロナウイルスの感染拡大による休校等で、年度初めの指導がうまくできなかった。次年度はメモを取る習慣を身につけることの大切さを年度初めだけでなく各学期においても呼び掛ける取り組みをしたい。 就職に関しては次年度の経済状況が大きく影響するため、社会情勢がどのようになっているのかが不安である。また、本年度2年生に対する進路行事を含め、様々な学校行事が中止になったことが生徒の進路選択に少なからず悪影響を及ぼすのではないかと考えるため、担任や進路指導部による、よりきめ細かな指導が必要になると思われる。就職の多い本校では進学に対する取り組みが手薄になっているが、工業高校であることを生かした受験方法もあるので、大学受験を考える生徒が地方の国立大学も視野に入れるなど、積極的に入試に挑戦できるよう、情報提供や進学対策を充実させたい。	A
		就職希望者に対して、就職セミナー（筆記試験対策）及び面接指導の充実を図り、就職内定へ向けた指導を行う。 就職希望者の一次募集での内定率 A：85% B：80%以上 C：75%以上	—		B			
	生徒に自らの自己実現を目指して努力させるための系統的な指導体制を確立する。	進学希望者に対して、進学セミナー（数・英・理講習会）及び個人指導を実施するとともに教材の動画配信サービスを利用した進学対策の導入をおとして、現役合格を目指した指導を行うとともに、積極的に情報提供を行う。 国公立大学現役合格・国立高専編入者数 A：4名以上 B：3～2名 C：1名	—		C			
	公務員希望者に対して、公務員セミナーなど個別指導を実施し、現役合格を目指した指導を行う。 公務員（技術・事務・消防・警察・防衛など）現役合格者数 A：4名以上 B：3名 C：1名以上	—		A				
	キャリア教育を推進するため、地域や産業界との連携を図り、就業体験学習を実践する。	インターンシップ体験発表会等を実施し、就業体験の必要性を理解させ、参加を希望する生徒を増加させる。また、就業体験学習を実施してくれる受け入れ事業所の開拓に努める。 インターンシップへの参加者率（2年生） A：100% B：95%以上 C：90%以上	—		C			
進路決定に必要な能力を養い、適切な情報提供を行う。	各機関の担当者や社会人講師、卒業生による説明会や講演会等を開催し、就職や進学に向けて幅広く情報を提供するとともに、入試や採用試験対策の機会を増やす。 進路に関する行事に対して「満足している」「ある程度満足している」と回答した生徒の割合 A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上	—		B				
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
保健体育	体育行事を行うことにより、自主性と積極性を育てるとともに、生徒間の親睦を図る。	各行事において、生徒自ら準備・運営・片付け等を行わせることにより、自主性と団結力を養うとともに、それらに携わってくれた生徒に対する言葉がけを意識し、学校全体に感謝の気持ちと協力する心を培う。	C		C	新型コロナウイルスにより全ての体育行事が中止になった。そのため、生徒自らの準備・運営等を行わせる場面はなかったが、体育館の椅子並べ等では生徒が自主的に動いてくれスムーズに準備ができた。 感染症予防の観点もあり、様々な工夫を行いながら基礎練習等に取り組めたと思う。 新興感染症の流行もあり、例年よりも細やかに健康に関する情報を発信したことで、保護者や生徒自身に健康に対する意識づけができた。また体育の授業後や食事前等、手洗い・うがいの徹底ができた。	これまでの前例にとらわれず、未曾有の事態の中で各行事を安全に実施できる方法を考える。また、体育の授業においても自主性や団結力を養うことを意識し、生徒の成長につなげていきたい。 例年より感染症予防の意識が高まったことで、インフルエンザの流行も減少しているように思うが、今後も気を抜かず、普段より予防や基本的な生活習慣の大切さを授業やSHRで啓発していく。また、実技や保健授業で毎回、食事の大切さ、欠食の影響(体の機能・健康)を伝えてきた成果はあるが、100パーセントに近づけるには、担副の先生方や専門授業の先生方からも啓発指導の協力をお願いする。	A
		体育行事を目標に、日頃の体育の授業において、基礎練習を通じた体力の向上と高い意識を養う。	B		B			
	各自の身体の健康について理解させるとともに、生徒の保健意識の向上を図り、健康の保持増進に努める。	定期健康診断および検診結果に基づく早期治療の徹底を図る。 A：90%以上 B：80%以上 C：65%以上 掲示物や配布物だけにとどめず、授業やSHR等の中で言葉を通じた保健指導もさらに充実させる。 生徒保健委員会活動の活性化を図る。 A：30回以上 B：20回以上 C：10回以上	B		B			
	望ましい食事の習慣を身に付けさせる。	朝食を摂る意義と栄養バランスの定義を考えさせる。各家庭に栄養バランスのプリントの配布をするとともにアンケートを実施し、その前後にも担副の先生や専門授業の先生から啓発指導の協力をお願いする。 A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上	B		B			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
環境厚生	学年末の教室整備実施への手だてに万全を期し、必要な諸条件を整えとともに、諸設備の点検と保全を行う。清掃用具購入コスト削減のため工夫する。	各教員の掃除監督場所について安全点検を月一回行い、その結果を「安全点検シート」として提出してもらい設備の不備、掃除道具の不足などを把握し、事務室と連携し、修理・管轄を要するものは速やかに対応し、教室整備関連の必要購入備品は、早い時期に購入する。部品修理できる物は、部品交換を行い、購入コスト削減に努める。 コスト削減率 A：5%以上 B：3%以上 C：1%以上	C	C	B	その都度の口頭による迅速な対応により、安全シートの提出は行わなかった。監督場所の安全点検では、設備についての点検と掃除用具の点検があるので、そのあたりを整理する必要がある。	監督者の煩雑さ、かつ安全第一を考え、設備の不良箇所については、今後も口頭で伝えてもらい、迅速に対応することで事足りると考える。掃除用具の点検については、学期に一度程度でよいと考える。	A
	日々の清掃およびゴミ分別の徹底を図り、定期的な大掃除の実施により、校内美化をより進める。	王工祭時のゴミの分別・収集・処理は、美化委員への指導を徹底する。 毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底する。各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理を徹底する。 ゴミの分別が確実にできている学級の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上	C	C		文化祭については実施を見合わせたので本来評価はできない。また、毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底することや、各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理については概ね徹底できた。	次年度も継続して、毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底することや、各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理を徹底していきたい。	
	他の分掌との連携を図ることのできるシステムを確立する。	地域への清掃活動を、学年毎に年1回（計年2回以上）実施する。 各学年参加者の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70% 各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくる。	A	B		生徒会指導部と連携してクリーン作戦を行うことができた。また、各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくることができた。	次年度の継続して、生徒会指導部と連携しながらクリーン作戦等の清掃活動を実施していきたい。また、各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくるしていきたい。	
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒会指導	生徒会活動が自主的活動になるように導く。	規律正しく、生徒自身成長できる学校生活になる校風を創造する。 「凡事徹底」を普通にできるようにさせる。 ボランティア活動を活性化させる。回数 A：20回以上 B：15回以上 C：10回以上 D：10回以下	B	B	C	・本年度は新型コロナ感染拡大の影響を受けて、生徒会主催の学校行事や県連絡会がほぼすべて中止となった。来年度は、コロナ収束を願い、生徒会がリーダーシップを発揮できるよう、新生徒会役員の育成に尽力したい。 ・2学期から感染予防策を講じてクリーン作戦、CCC活動などのボランティア活動を再開させることができた。来年度は、クラブ単位のCCC活動をさらに活性化させたい。	・生徒会執行部のリーダーシップを育て、各種行事の企画・立案を促進させるため、月2回程度の役員会を開催していく。 ・生徒会選挙の各種公約を全て実現するさせないは別として、役員会でてきた学校改善のための要望などは積極的に公の場に出していきたい。（生徒会執行部のやる気を育てたい）	A
	部活動の活性化を促す。	生徒のクラブへの全入を目指し、生徒会・各部署でのアピール活動を積極的に行い、部活動加入率を上げる。部活動加入率 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%以下 とする。 生徒が生涯を通して楽しめるスポーツや趣味を持たせる。 部活動費を充実させる。	C	C		・加入率は今年度は全体で82.6%で前年比マイナス1.2ポイントだった。新型コロナ感染拡大の影響でクラブ紹介が体育館で実施できなかったことも一因かも。 ・生徒数減少にともない今後生徒会予算が減額していくことが予想される。予算計画の段階で各項目を見直し、効果的に予算が執行されるように検討したい。	・各クラブ予算をクラブ員の増減を一つの目安として計画していく。 ・現在はクラブ個人登録料を半額生徒会から支出しているが、今後は減額、将来的には全額生徒負担としたい。その差額分を各クラブの予算に効率的に組み込んでいく。	
	ホームルーム活動の活性化を図る。	自主的で民主的なホームルーム活動をするための仲間づくりを進める。 各クラスの目標を定め、その実践に努める。各種専門委員会からの目標・意見をくみ上げ、実践に取り組む。	C	C		・各種専門委員会からの目標・意見をくみ上げて実践できていない。生徒会役員会を実効あるものとして、生徒の声をもう少しくみ上げることができ体制を構築したい。	年間HR計画中の学年裁量のLHRについて各分掌・学年で綿密に計画をお願いしたい。（仲間作り、自主性の育成などを目的としたHR計画）	
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
機械工学科	実習内容の充実	新学習指導要領を見直し、実習内容の見直しを検討する ① 現在の実習内容の課題を抽出する。 ② ①の課題を解決できる実習内容について検討する。	A	A	B	①実習内容に関して課題を抽出できた。 ②製造パートにおいて、観点別評価である思考力・判断力・表現力の項目について評価することができるレポート課題を作成。作品（傾斜バイス）の図面に関しては、寸法変更を図面に反映させることができた。	①特になし ②レポート課題の改訂については、今後全パートについて実施する予定である。	A
	観点別評価に向けた検討	新学習指導要領を見直し、観点別評価について検討する ① 現在の評価法の課題を抽出する。 ② ①の課題を解決できる観点別評価の内容について検討し、一部実施する。	B	B		①座学における観点別評価の課題を抽出できた。 ②特に思考力・判断力・表現力の項目に関し、機械工作（2年）では、奈良Timeを実施する中で班ごとに調査内容を発表し生徒相互で評価を実施できた。自らの発表を振り返り、何が足りないかを認識することを促すことができた（指導と評価の一体化）。	①特になし ②観点別評価の内容については、今後他の座学についても着実に実施していく予定である。	
	課題研究等の内容検討	探究科目（課題研究）や外部連携について内容を充実させる。 ① 創意工夫を凝らした課題研究テーマを検討する。 ② ものづくりに関し外部より必要な技術指導をしてもらう等、派遣講師の効果的な活用方法を検討する。 ③ 企業実習を実施し、加えて企業や地域と連携した取り組みを検討する。 ④ 内容を効果的に外部（中学校等）にPRする方法について検討する。	A	A		①今年度も創意工夫を凝らした課題研究テーマについて、生徒と教員が検討することで実施することができた。 ②外部の企業連携として、技能検定（旋盤2級および3級）取得に向けてシバタ製針（葛城市）や職業能力協会からお招きした外部講師を効率的に活用できた。 ③今年度もGMB（株）のご協力を得て、3年生3名に対し通年で企業実習（奈良県版デュアルシステム）を実施できた。企業側からも単に実習するだけでなく、座学を取り入れた内容を検討していただき実施いただいた。また、企業側から生徒を評価いただく施策を充実実施できた。	①来年度から2年生で実施される学校設定科目のResearch&Discoveryのなかで、プロジェクトマネジメントといった手法を用い、テーマ創出ができるようにしていく。 ②今後も外部講師を積極的に活用していく予定。 ③企業実習について、企業から生徒の評価を効率的にいただき、生徒にフィードバックできる施策について継続的に検討していきたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
電気工学科	科の経営	①新学習指導要領に対応した教育課程を検討する。 ②各科目の学習内容に適応した観点別評価の方法を検討する。 ③実習室の施設・設備の維持管理方法について、実習室の保全や安全に作業が行える観点から検討する。	B	A	A	1年生は新学習指導要領に対応した教育課程になっており、本年度の学習状況を見る限り良好であった。数科目で観点別については検討してみたが科目の特性があると感じられた。2学期から3学期にかけて実習室のリニューアルをし安全に実習が行えるようになった。	来年度は新しい学校設定科目である「Research&Discovery」が2年生で行うので、新学習指導要領にある探求的な学習の機会を増やしていく。実技科目での観点別評価も検討及び実施していく。今年度に引き続き実習しやすい環境を整えていく。	A
	学習指導	①職業人として問題発見・解決能力を育成できる授業について検討する。 ②専門的な知識・技術を身につけるために資格取得に向けて組織的な取り組みを検討する。	A	A		本年度はコロナウイルス感染症の為、関西電力との施設見学会や職業体験が中止になったが、メガソーラーの見学は行えた。第2種電気工事士の講習会は出来なかったが技能検定の講習会は行えた。	関西電力や奈良県電業協会と連携して、電気技術者としての問題発見・解決能力を育成する機会を増やしていく。外部講師を招き資格取得に向けての技能講習を行っていく。	
	研究・研修	①主体的かつ協動的に取り組める課題研究のテーマを検討する。 ②教員自らが新しい知識・技能を習得するための体制について検討する。	B	B		コロナウイルス感染症の為、課題研究のスタートが遅れたが、テーマを上手に設定し製作や研究が行えた。科内の実習の持ち方を工夫し、教員同士で教えあいや内容の検討が行えた。	来年度のテーマに関して教員同士がその情報を共有できる機会を設けていく。学校全体及び電気科独自の教員対象の講習会等を開いていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
情報電子工学科	情報電子工学科の運営	新学習指導要領に則した教育課程の編成 ・工業高校の情報系学科として、これからのSociety5.0社会に対応できる人材育成に向けたカリキュラムの編成を検討する 観点別評価の構築 ・現状の評価法の課題を整理し、3観点の評価法の構築に向けて検討する 実習教室の環境整備 ・安全に実習が行えられるように備品配置や管理方法を検討する	B	A	B	PBLを用いた学習法に取り組み、生徒の授業への参加意識が向上された内容を奈良県工業科学学習指導研究会において発表を行った。観点別評価についての評価方法や評価基準の策定が急務である。実習教室の机や配線機材の環境整備を行い、教育環境の改善を図った。	来年度、学校設定科目「Research&Discovery」を導入し、PBL学習を取り入れたカリキュラムと評価を確立するための研究を科内で進めていく。またその成果を来年度の奈良県学習指導研究会で発表を行う。実習教室の環境整備を今後も行っていく。	A
	学習指導	わかりやすい授業、資格検定取得に向けた取り組み ・きめ細かい指導を行い、基礎能力向上と資格検定の合格につなげ、更なる資格取得に向けて取り組ませる指導を模索する。 自ら学ぶ態度、協動的に取り組む態度の育成 ・各科目において提出期限を守り、内容も丁寧に仕上げ、協動的に取り組む態度を育成する指導を検討する 社会人講師の活用 ・知識や技術、コミュニケーション能力の向上を図るため、社会人講師を活用した講義を実施する	C	B		在宅学習期間の影響があり、資格検定の授業計画を変更したが、1年生の危険物取扱者の合格率は向上した。しかし更なる向上が必要である。さらに1学期の社会人講師の講座を中止したが、8月以降、外部講師を招いた講座や実習を行うことができた。	わかりやすい授業展開を行うため、教員の情報交換や生徒とのコミュニケーションをより図っていき、生徒の学習意欲向上を図る。社会人講師については、今後も実施していく予定ですが、社会情勢の変化や感染症対策を取った上で計画していく。	
	課題研究・教員研修	「課題研究」の取り組み ・「人に役立つものづくり」を目標とし、広い視野で社会の物事を捉える力、課題を見つける力、問題解決に向けて考える力、グループ活動を通じたコミュニケーション能力を養い、地域社会で活躍できる人材の育成をめざす 地域学校・企業との連携事業 ・小中学校や企業・団体と連携した授業・実習に取り組むことにより、生徒の探究心向上と教員の指導力向上を図る 教員の指導力の向上 ・教員が常に情報収集に努め、得た研修成果や知識を具体的に授業で生かしていく	B	A		コロナ感染拡大予防により、課題研究の遅れや、地域連携に制約があったため、最終発表その中でも、王寺中学校とのプログラミング講座やコロナ対策の機材製作に取り組む班もあり、制約された中でも工夫した内容を展開することができた。科内のプロジェクト会議や教科会議において、意見交換と情報共有を行い、生徒や授業の様子などの情報交換を行ってきた。	課題研究は工業高校で学んだことを活かす集大成であることから、今後も「人に役立つものづくり」をテーマに、地域や企業・団体との連携を進めていく。また教員の指導力向上を図るため、授業や教材研究の情報交換や研修を重ねていく。これからも多様な生徒対応に向けて、教員間の情報交換を今後も図っていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	挨拶・マナー指導を徹底する。	B	B	B	積極的な取り組みをさせるには、挨拶やマナーの向上がなぜ必要なのか自覚させることが大切である。頭髪・服装指導において、クラスでの取り組みをベースに主任・副主任による定期的なチェックにより公平感を持たせ、素直に従う雰囲気をつくることができている。ことあるごとに学年集会を開き、生徒、教師を問わず共通の問題意識を持つことができたと思われる。	学年団としての共通認識を持ち、普段のHRでの取り組みや学年集会等で、指導や説諭の機会を増やして生徒自身に自覚を持たせる取り組みを根気よく継続することが大事である。教師サイドもクラス間での情報交換を行い、話し合う機会を増やす方法を模索したい。	A
		生徒指導部と連携を取りながら、入学時より、校門指導や学年の定期的な頭髪・服装指導を徹底する。	A	A				
		王寺工業高校生としての自覚と誇りを持って生活できるように、ホームルームや学年集会において指導する。	B	B				
	進路実現に向けて、基本的な事柄から取り組む。	生徒各自が夢を見つけられるように適切なアドバイスを行い進路実現に向かって取り組ませる。	B	B	B	各担任から働きかけてもらっているが、生徒の中には具体的な方向性を持っていない者もいる。朝学習の時間や、長期休業中に宿題として取り組ませた。	生徒の意識が、かなり低い印象が強く、学習に対しても取り組みが甘い。まず、クラスの現状に応じた指導を考え、粘り強く続ける事が大事である。	
		朝学習の時間にマナトレを導入して、基礎力をつけていく。	B	B				
生徒理解に努める。	人と関わる力や責任感などを伸ばすためにクラブの加入率100%を目指す。クラブ加入率 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上	C	D	2学期に入りクラブの加入率や実際に参加している者が減少している事実がある	部活動の意義を指導してはいるが、各クラブの考え方や学校としての方針をある程度統一する必要がある。			
	個人面談や家庭訪問等を通じて、生徒の状況把握と生徒理解に努める。また、家庭と連携し生徒の成長をサポートする。	B	B	家庭との連携は、電話連絡や家庭訪問など各担任が比較的密に取っているように思われる。	普段から生徒の様子に気を配り、変化がある場合には早急に対応することが大事である。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第2学年	規律ある生活態度の確立と安全教育の推進を図る。	挨拶の励行、マナー指導を徹底し、社会に出るための準備を着実に進行。	4	3	4	しっかりとした挨拶や礼ができる者も増加しているが、十分ではない。頭髪に関しては、指導に対する改善が大幅に早まった。服装については第一ボタンのチェックを強化した。学校再開当初は規範意識に問題が見られたが、粘り強く指導した結果落ち着きが見られてきた。学年当初より、来年度進路活動開始に向けて学年で統一したHRを計画的に展開できている。コロナ禍が原因でインターンシップの実施自体が難しい現状となった。また、卒業生招聘の講演会が中止となった。コロナ禍で時間的制約が多くなり成果は低かった。	学年のすべての担当者が場面を問わず指導する粘り強さしかない者と思われる。意思統一と方法の検討が必要であると思われる。	A
		学年を中心に生徒指導部と連携して、校門指導や定期的な点検を行い、服装・頭髪指導を強化する。	4	4				
		王工生としての自覚と誇りを持って生活できるよう、HRや学年集会において指導する。また、交通安全を重点に安全教育の強化を図る。	3	4				
	進路実現に向けた取組を強化する。	4	4	年度前半の休校により時間的な制約があったが、効率としっかりした計画が重要であると思われる。				
	普段から進路設計について進路指導部と連携し、意識を高める。	4	4					
	進路指導部と連携し、インターンシップの体験発表会を参考に2学期末にインターンシップを実施し、希望者の参加率100%を目指す。インターンシップ参加率 A:100% B:95%以上 C:90%以上	4	4					
	第1学年に引き続き、マナトレの指導を行う。SPI問題集の導入を図り、基礎力を付ける。	3	3					
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第3学年	基本的な生活習慣を確立させる。	日々の学校生活の中で、担任、副担任、授業担当者、クラブ顧問、生徒指導部等、生徒に関わる全教職員が常に連携をとり、服装、頭髪の乱れを把握して指導する。	B	B	B	学年主任を中心に、学年全体で定期的に頭髪・服装指導等、当該教員全員での見守りと指導の機会をもってきた。大部分はすぐに改善されるが、一部になかなか改善されない生徒がいる。立ち止まってしまう挨拶、団体行動など、時と場所をわきまえた社会人としてのマナー、けじめについては対応できている。クラス指導だけでなく、学校全体等を通したそれぞれの面接指導を行い、挨拶、礼儀作法などコミュニケーション能力が向上した。他クラスの生徒の希望状況をサーバ上を通して共有することで、混乱することなく自クラスの進路指導に非常に役立った。コロナウイルスの影響もあり求人数は減ったが、先生を含め生徒個々も進路実現に向けて積極的に取り組み良い結果を残せた。一般大学入試等まだあるが、専門学校も含めて現時点での合格率はかなり高い。	自分の将来についてしっかりと考えさせる機会をHRや学年集会等で意識付け、服装・頭髪指導・日々の学習活動がどのように将来に役立つかを元に、将来について目標を持たせていかなければならない。また、インターンシップや企業見学などで実際の工場や産業現場で働く人達の姿を見せる機会を増やしていくことも効果的である。生徒の進路希望情報をサーバ上で共有する事により、生徒の進路指導に効果的に活かすことができた。コロナウイルスの影響で求人数の減少により今までより厳しい状況であり、しっかりとした学力とコミュニケーション能力と自己アピールできる力を身につけさせる取り組みが必要である。進学者については、現行のセミナーや補充講座をきっかけにして早い時期から継続して取り組ませることが大切である。	A
		最高学年として日々、社会人として必要な生活態度、マナー、けじめをつけることなど、時と場所をわきまえた行動ができるよう指導する。	B	A				
	コミュニケーション能力の向上を目指し、面接指導も含めて、挨拶、礼儀作法、エチケットなど、機会あるごとに実践させ、を身に付けさせる。	B	A					
	生徒の現在の希望状況をサーバ上にアップして効果的な活用を行うなど工夫して、クラス担任間で逐次情報交換していく。	B	A					
	進路実現に向けて、生徒個人が希望した企業や進学先の情報収集をさせ、その試験に臨むための対策を考えさせ、実行させる。	B	A					
	就職内定率100%を目指す。内定率 A:100% B:95%以上 C:90%以上	-	A					
	進学者合格率100%を目指す合格率 A:100% B:90%以上 C:80%以上	-	A					

学校関係者によるご意見

- ① コロナ感染症対策による教育活動について、分析・検証を行い今後を生かして欲しい。 →
- ② 授業改善については、すぐに効果は見えにくいですが、継続して取り組んで欲しい。 →
- ③ 生徒指導について、生徒自身に「気付き」を与えるような指導をお願いしたい。 →
- ④ 「自己評価」の評価者が誰なのかわかりにくい。 →
- ⑤ 生徒にとって、活字離れが気になります。メモ・記録の重要性の指導を継続して欲しい。 →
- ⑥ 生徒との会話・ふれあい等を通して、「伝える教育」を継続してください。 →

学校側の回答

- 各担当での分析・反省を含めて、新年度に向けて活かしていきたいと思っております。
- 授業改善については、今後とも少しでも改善の成果が現れるよう、継続して取り組みます。
- 指導方法を工夫し、「気付き」を与える指導に心がけたいと思っております。
- まず各担当分掌・学年・科で、自己評価を行っています。それを全職員で確認しています。「読書週間」や「メモ指導」を通じて今後とも指導してまいります。
- 生徒とのコミュニケーションの重要性を再認識して、「伝える教育」を目指します。